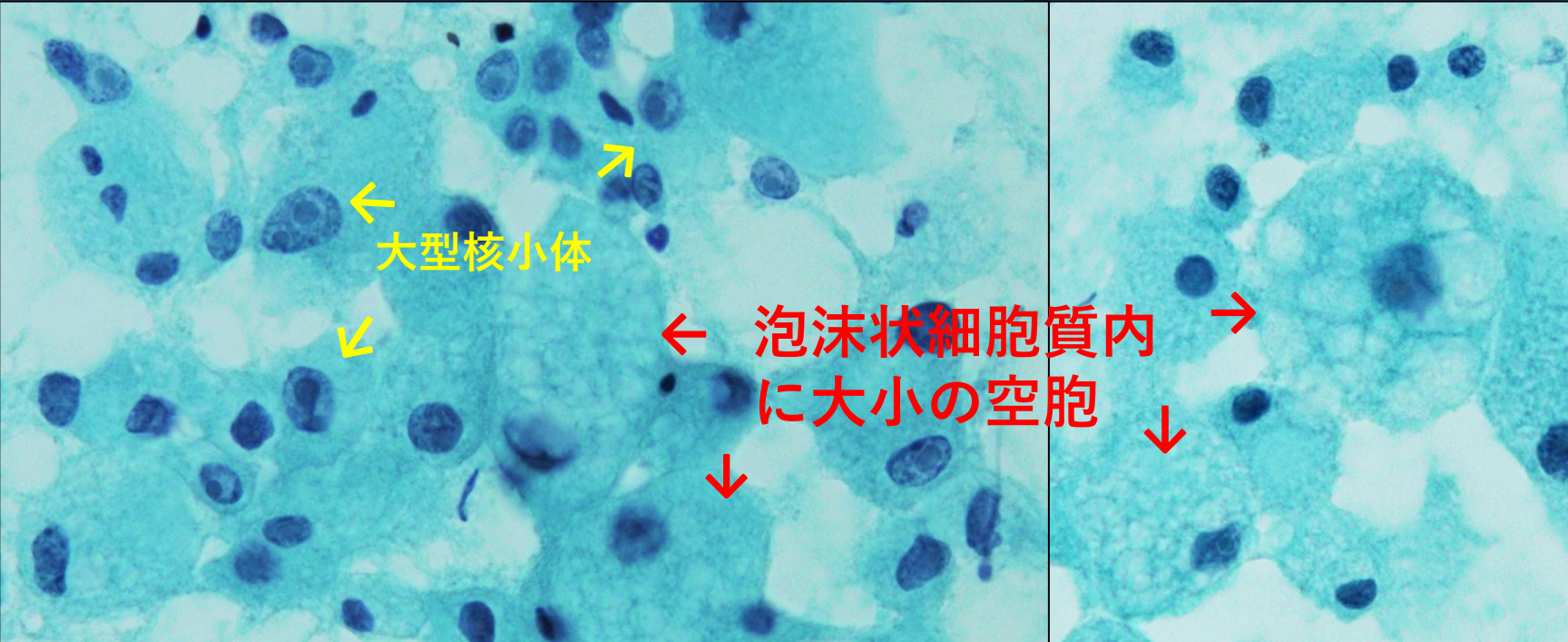
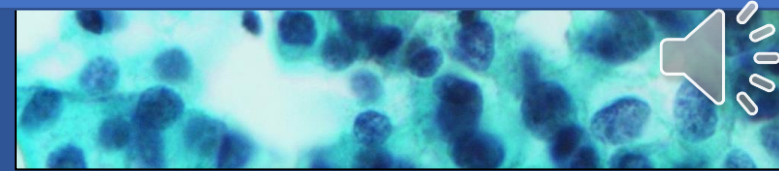




重積のある集団
からのホツレ
細胞結合性は緩
いが保持されて
いる →

上皮性の悪性腫瘍

組織球様の細胞質をも
つ腫瘍



細胞所見のまとめ

全体の印象：細胞質が豊富な細胞が目立つ。

細胞結合性(+)。

集塊辺縁のほつれ。

N/C比の差が大きい。

核：濃染、大小不同、類円形～不整形、大型核小体。

細胞質：豊富、泡沫状、大小の空胞。

1. 嚢胞

N/C比が小さく泡沫状細胞質が類似しているが核異型乏しく結合性が見られない。

2. 顆粒細胞腫

エオジン好性の細胞質を有する腫瘍細胞からなる末梢神経のSchwann細胞由来の腫瘍。乳腺ではほとんど良性。均一性の円形～卵円形の核を有する。細胞質内には無数の微細顆粒（PAS陽性ジアスターゼ抵抗性）。S-100蛋白陽性。

3. 小葉癌

4. 脂質分泌癌

5. 腎癌の転移

代表的な古典型では、小型細胞が単個～結合性が疎な小集団で出現し、核は比較的小型均一で偏在し、細胞質にICLを認める事が多い。

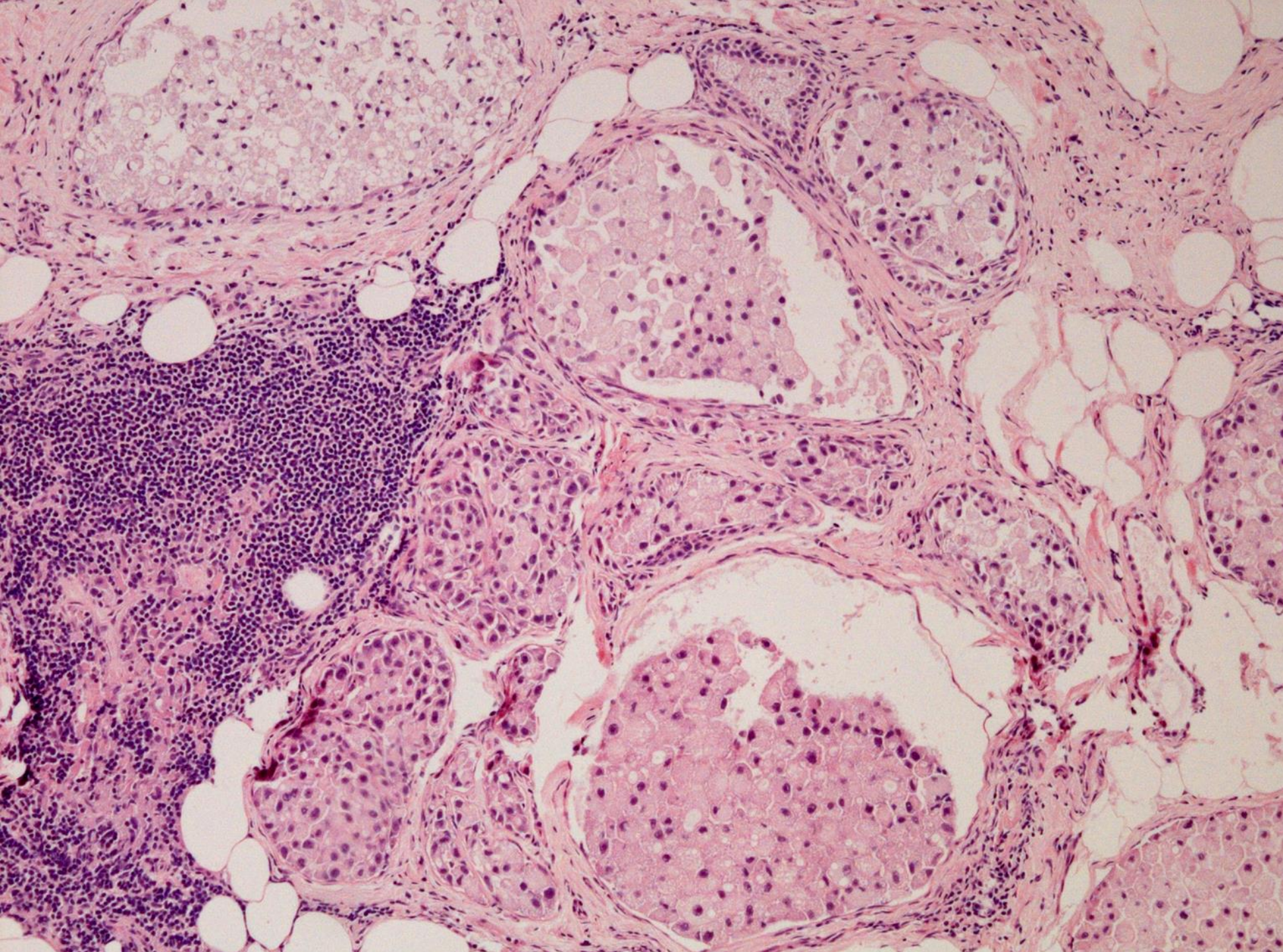
淡明ないし好酸性顆粒状細胞質である。グリコーゲンを有することからPAS(+)。原発同様血流が豊富である報告があり、背景に出血や血管性間質がみられることも推測される。臨床所見が重要。



脂質分泌癌 lipid-rich carcinoma

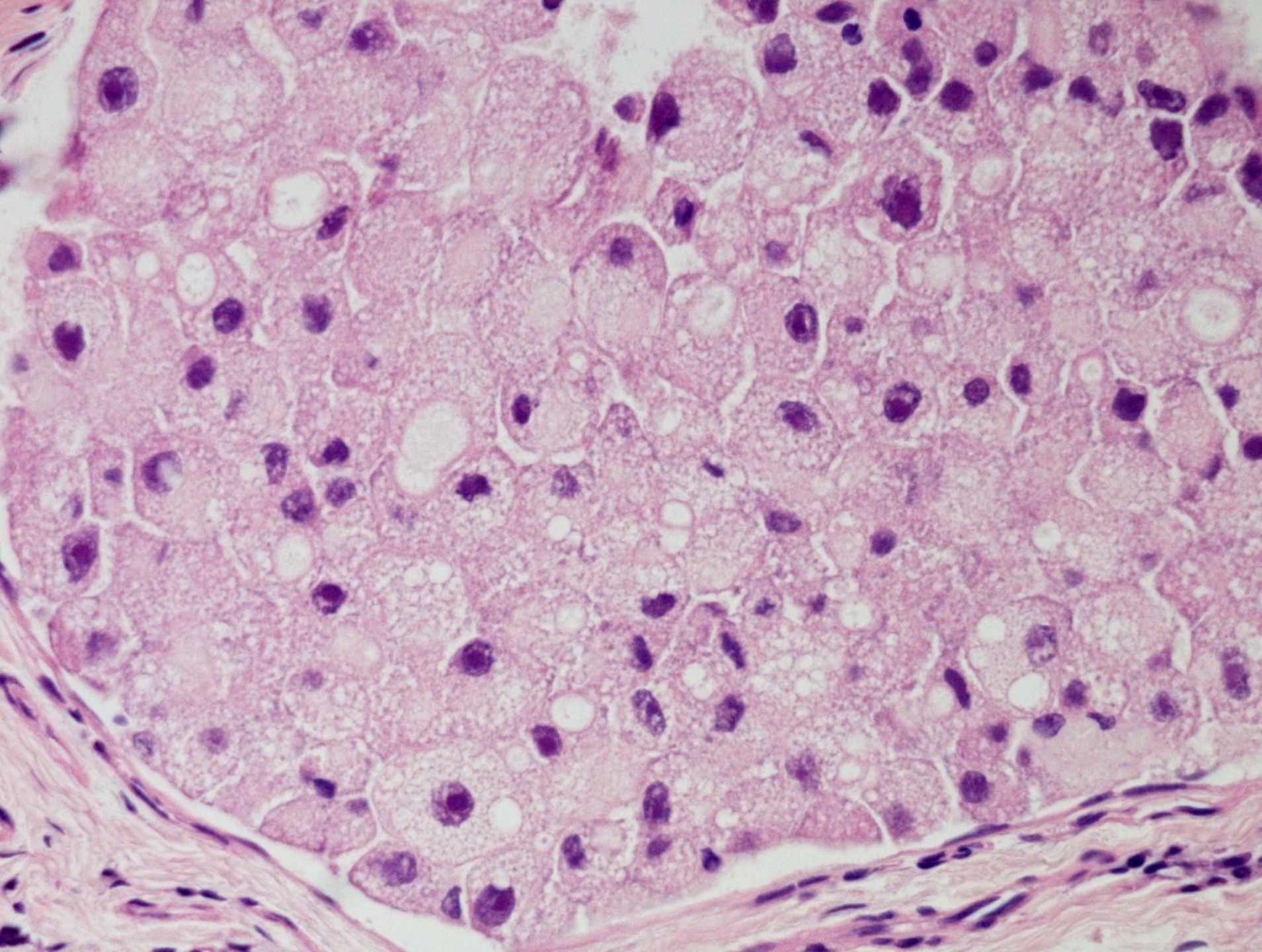
- ・ 腫瘍全体の90%以上が脂質含有細胞から構成されるもの、と定義されている。
- ・ 発生頻度は全乳癌の約1%以下、極めて稀な腫瘍である。
- ・ ホルモン受容体およびHER2発現の有無も報告により様々である。





腫瘍細胞は主に乳管
内に充実に増殖、
間質への侵襲が認め
られる



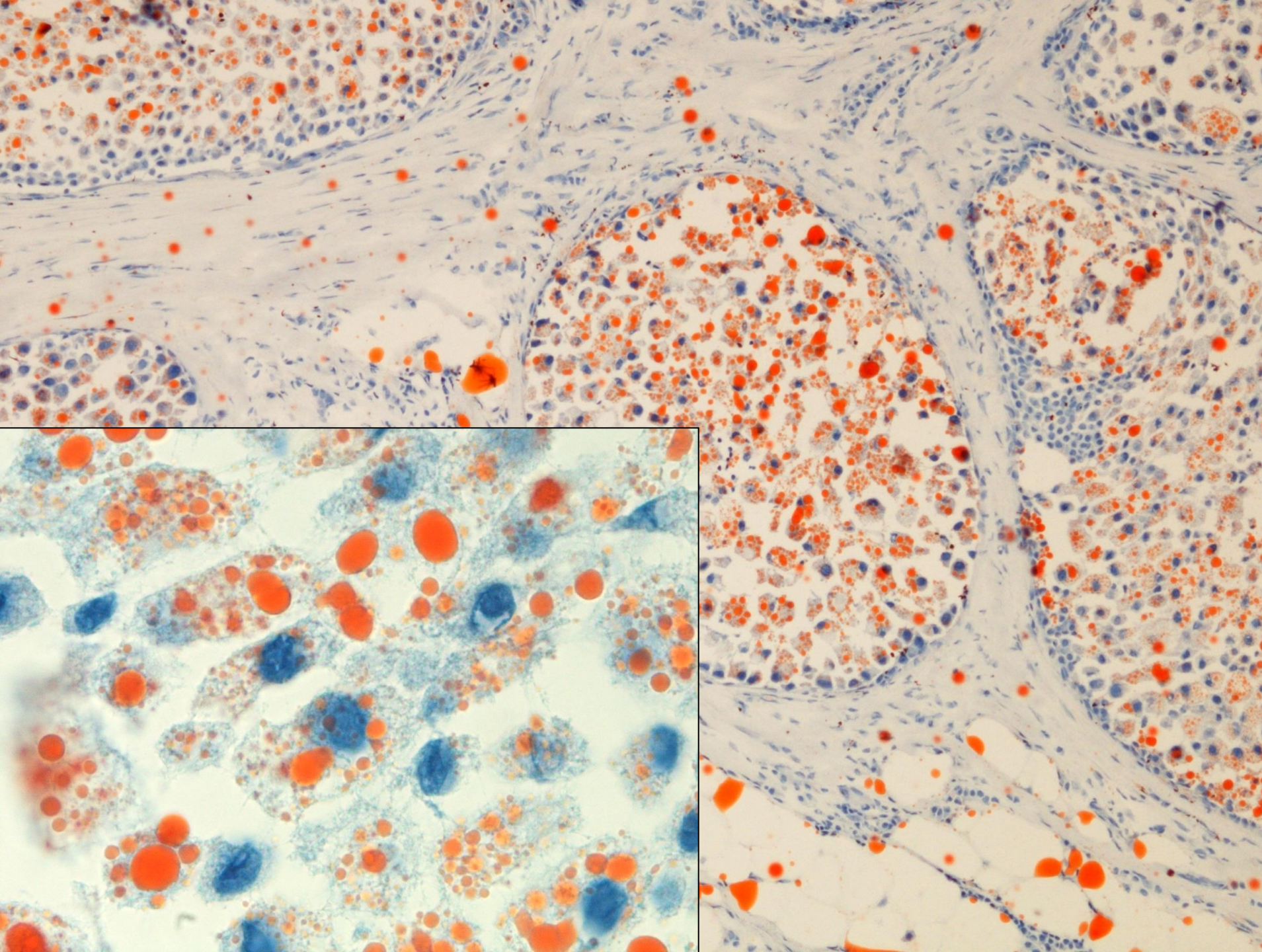


- ・ 腫瘍細胞の大部分はN/C比が小さく豊富な細胞質を有する

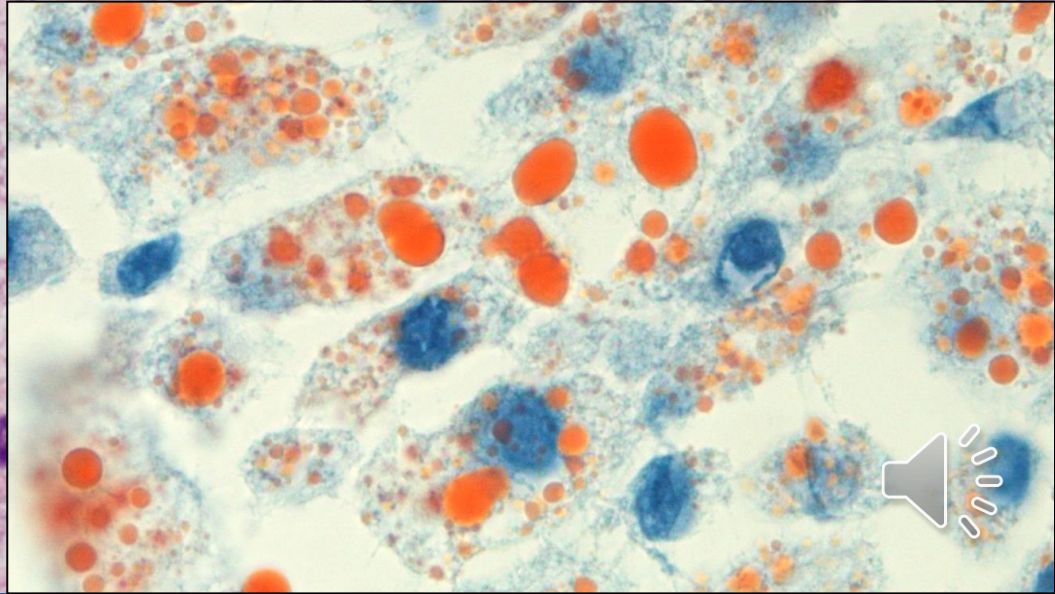
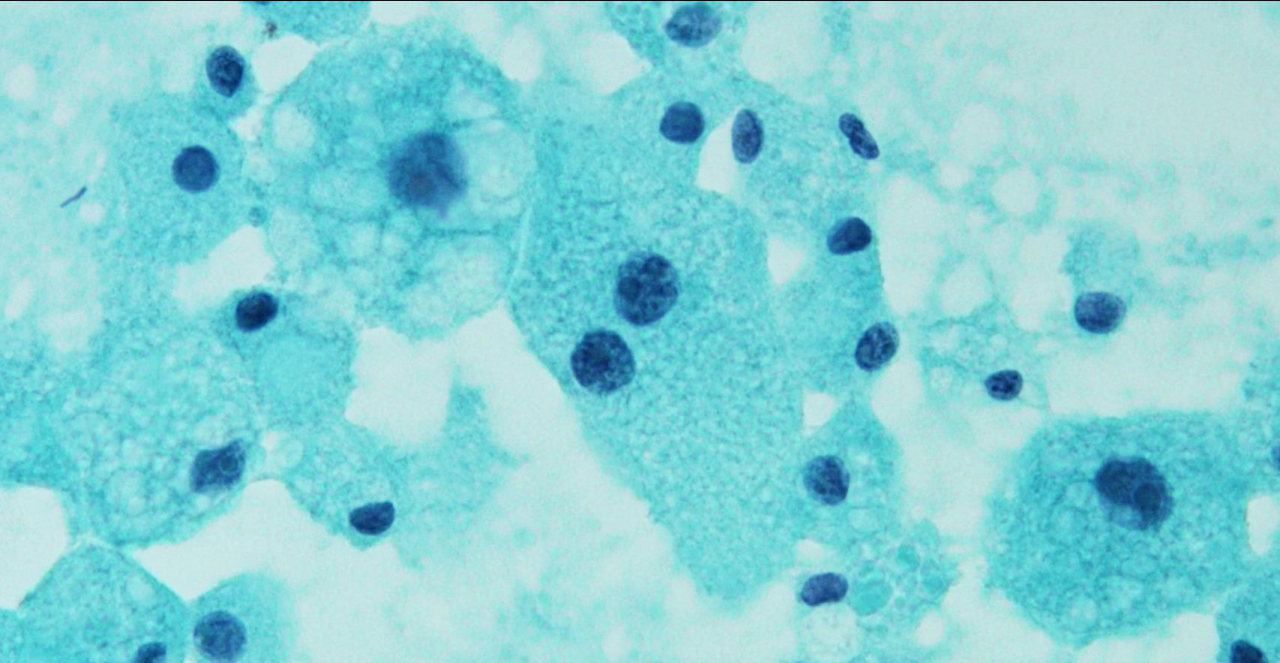
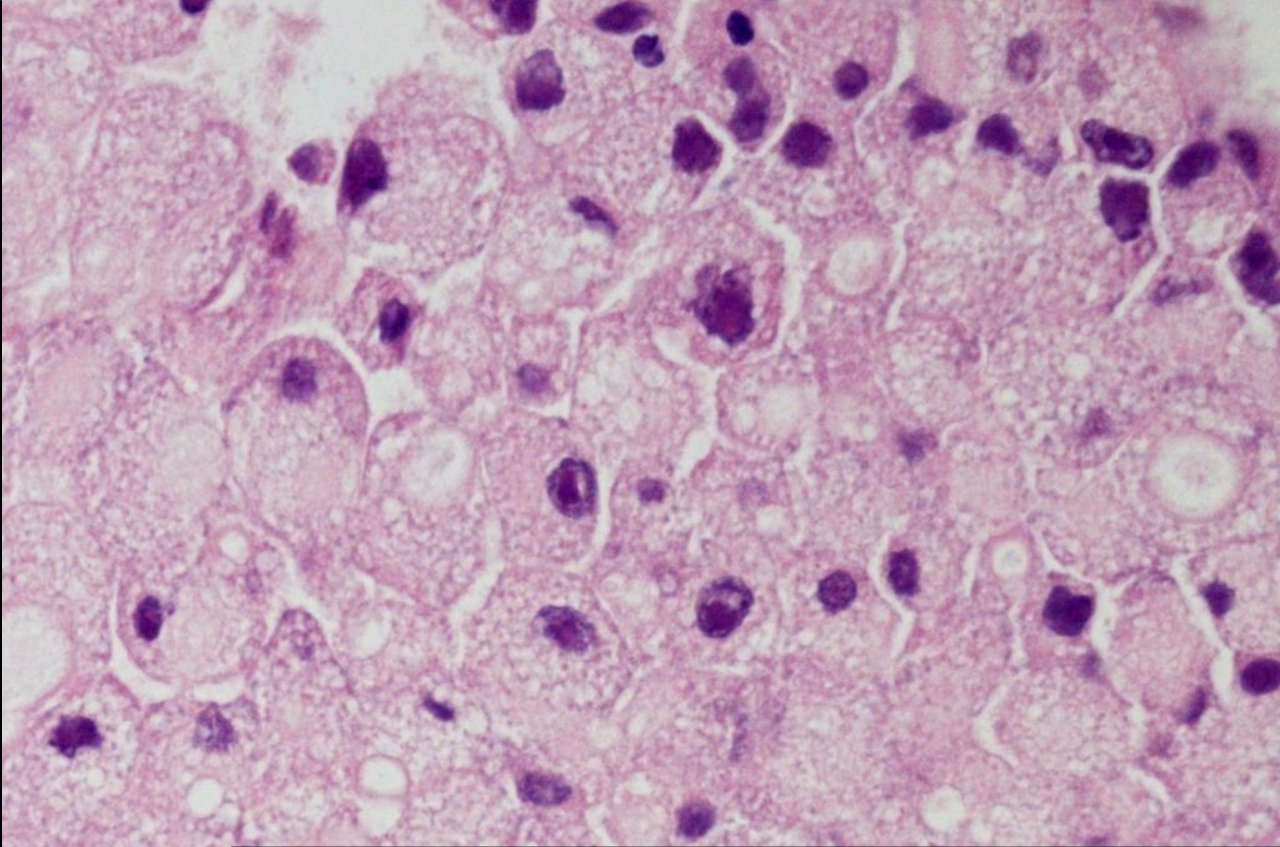
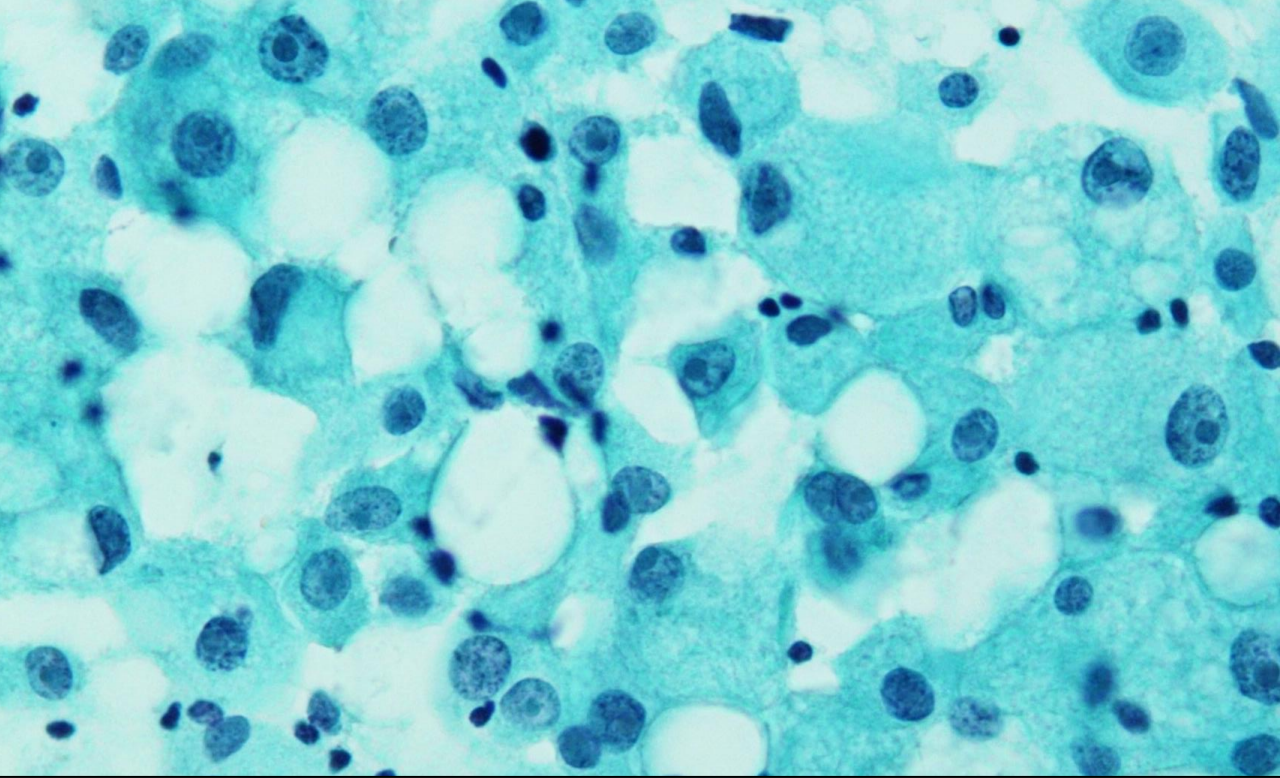
- ・ 核は大小不同、不整形、大型核小体が見られる

- ・ 細胞質は泡沫状で大小の空胞が見られる





・ 脂肪染色では、大部分の細胞の細胞質内に大小の脂肪滴が見られる



組織球様細胞質を有する細胞から構成される腫瘍

脂質分泌癌 → PAS(－) GCDFP-15(－) 90%以上の細胞が脂質含有

アポクリン癌 → PAS(+)ジアスターゼ抵抗 GCDFP-15(+) 脂質の証明の報告
* 脂質分泌癌とアポクリン癌は近似性を指摘されている研究もある。

多形型浸潤性小葉癌（組織球様細胞亜型） → E-cadherin(－) GCDFP-15(+)

腎癌の転移 → PAS(+) GCDFP-15(－) PAX8 (+)



まとめ

- ・ 組織球様細胞から構成される組織型を知っておくことで、組織型推定の一助になる。
（脂質分泌癌、アポクリン癌、多形型浸潤性小葉癌（組織球様細胞亜型）など）
- ・ 核異型の弱いとき、特に細胞少量の場合は慎重に。
臨床所見や画像所見と食い違うときは臨床とのコミュニケーションが必要。



ご清聴ありがとうございました